

道徳の時間学習指導案

三次市立みらさか小学校

- 1 日 時 平成29年 11月10日(金) 第2校時
- 2 学 年 小学校第6学年 24名(男子11名, 女子13名)
- 3 場 所 小学校棟 6学年教室
- 4 主題名 友達の存在の大切さ 【内容項目B 友情・信頼】
- 5 ねらい 人間と仲良くしたいという赤おにの思いを叶えようと旅に出た青おに、青おにからの手紙を読み涙する赤おに、互いの友達への思いを考えることを通して、友情とは互いに相手の立場を思いやりながら育てていくものであることに気付き、友達と信頼し学び合いながら友情を深め、人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。
- 6 教材名 「ないた赤おに」 出典【 文溪堂 】

7 主題設定の理由

○主題観・価値観

本主題は、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」のB－(10)「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」をもとに設定した。

近年社会の著しい変化は、子どもたちを取り巻く環境を大きく変えている。特にSNSの普及は、子どもたちの『友達』に対する考え方を換え、子どもたちの友達との関係は、常につながっていることが重要視され、そのつながりが切れれば友達ではなくなると思う子が多い。子どもたちが、このように簡単に自分と気が合ったから友達がつながることという表面的なつながりでいる限り、真の友情は熟成しえないことが多い。

友情とは、様々な悩みや意思疎通の難しさなどの困難を乗り越え、互いの人格を大切にし、信頼し合うことである。そして、信頼し合うということは、共によりよく生きるために、自分は相手のことを大切にしていると信じ、自分は相手にとってかけがえのない存在として、友達を大切にしているということである。真の友情とはこうした相互関係に支えられ、お互いに学び合い、励まし合うことや互いに助け合ったり、時には忠告し合ったりしながら切磋琢磨することで育ち、深められていくのである。

高学年の時期は、これまで以上に友達を意識し、仲のよい友達との信頼関係を深めていこうとする。また、流行などにも敏感になり、ともすると趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団をつくる傾向も生まれる。そのため、疎外感を感じたり、友達関係で悩んだりすることがこれまで以上に見られるようになり、友情についてより深く考えることが重要と時期である。

児童にとって重要な人間関係の一つである友達関係は、学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。友達同士の相互の信頼の下、互いに磨き合い、高め合うような真の友情を育むと共に、互いの人格を尊重し合う人間関係を築いていく重要性から、本主題を設定した。

○児童観

児童の思いの中に、『親友』をもちたいと思う気持ちは強い。6年生になり、「おそろいの物を持ちたい。」「友達になるためには、相手の誕生日や好きなものを知ってないといけな。」「誕生日にはプレゼントを贈ろう。」など、友達と深くつながりたいと思ったり、友達関係を広げたいと考えたりする児童が増えている。そのような状況の中で、「友達とは何だろう。」とつぶやく子もおり、友達とは

…友情とは…と考えることが多くなってきている。特に小学校生活最後の学年であり、地域以外の中学校への進学を望む子は、地域を離れてしまうことへの不安も友達とは何かを考える要因となっていると考えられる。

《 i - check 結果 》

質問項目	肯定的評価	否定的評価
自分にはいいところがありますか。	80%	20%
あなたの気持ちを分かってくれる友達がいますか。	92%	8%
辛いことや困ったことがあった時、何でも本音で相談できる友達がいますか。	88%	12%
頑張った時、友達からほめてもらったことがありますか。	92%	8%
つらかった時、悔しかった時、友達から優しい言葉で、心がなぐさめられたことがありますか。	92%	8%
周囲の人からたよりにされているんだなと感じることがありますか。	60%	40%

《 事前アンケート 》 複数回答あり

①「友達」はあなたにとってどんな存在ですか	
一緒に遊んでくれる人	17人
何でも話せる、聞いてくれる人	8
大切な存在	4
助けになる	3
勉強を教えてくれる人	2
心から信頼できる	1
②自分は友達にとってどんな存在でありたいですか。	
話を聞いてあげることができる。	5
助け合える	5
いつも一緒にいる、支える	5
気まづくならない	3
何でも相談できる、分かる	3
優しい	3
好かれる・大切な存在・安心できる・必要とされる	3

アンケートの結果から、自分の気持ちが分かってくれる友達がいると回答した児童が、92%に及ぶ。児童にとってその「友達」とは、一緒に遊んでくれる人であったり、何でも話せる存在であったり、常に身近にいる存在であることが分かる。「大切な存在」「心から信頼できる」など心情で表している児童は、4名である。

友達との関係において、友達に支えられた経験をもつ児童の割合は、非常に高い。しかし、「自分が相手の支えになっているか。」という問いに対して、60%の児童しか肯定的に回答していない。

「自分は友達にとってどんな存在でありたいか。」という問いに対しても「話を聞いてあげることができる。」「いつも一緒にいる、支える」など、「友達」をどうとらえているのかと同様に、常に身近にいて助け合える存在でありたいと感じていることが分かる。

児童の生活の様子からも、仲の良い友達との間に距離を感じると不安になったり、嫌われたのではなにかと思ったりする児童がいるのは、友達と一緒にいる時間を共有することの重要度を友情の深さと感じている児童が多いことがわかる。

○教材観・指導観

本教材は、浜田廣介作の児童文学で、友情・信頼について深く考えることができる代表的な作品であ

る。人間と友達になりたいと思う赤おにの思いを叶えるために、人間の悪者役になる提案を進める青おに。赤おには、その提案に悩みながらも実行し、人間と仲良くなれる。そして、青おには赤おにのことを思い、一人で旅に出たことを知った赤おには、どんな時も自分を大切に思ってくれる青おにの友情に涙する話である。

指導にあたり、導入では、友達についてとったアンケート「友達だからできること。」の結果を提示し、価値への動機付けとしたい。

授業展開では、赤おにと青おにの心情が重なる2つの場面を中心に考えさせる。1つ目の場面は、立札を壊す赤おにの気持ちに青おにが寄り添い心配する場面である。2つ目の場面は、人間の家で暴れ計画を進める青おにとためらいながらもその作戦をしようとする赤おに、それを実行する青おにとためらいながらも実行していく赤おにの場面である。この2つの場面で、二人が互いを思う気持ちは、どのように重なるのかを考えさせ、この二つの場面の心情から二人の関係は、本当の友達と言えるのかを考えさせたい。

中心発問では、青おにの置き手紙を読み、赤おにが涙を流す場面の互いの心情を考え、青おにの手紙に書かれた「どこまでも君の友達」という言葉をもとに、二人の友情はこれからも続いていくのか考えさせたい。離れていても続いていくのであれば、互いを思う心に奥にどんな思いがあるのかを、続かないとすれば、どんな思いが、友情が続かない理由になるのかを考えさせ、友情について考えさせたい。また、その過程で、友情とは、相手のことを考えていても、すれ違うこともあったり、本当は相手のためにならないこともあったりしながらも、相手のことを信頼し、相手の思いや行動に学び合いながら育てていくものであることを考えさせていきたい。

価値を深める話し合いの過程として、まず、児童に自分の考えと向き合わせるためにワークシートを活用し、自分の考えを記述させたい。その後、班の形態をとらせグループで考えの交流をし、考えを広げたりグループ内で問いを見つけさせたりさせたい。さらに、学級全体で考えを深めていくために、考えの交流を行い、出た考えの中から『問い（どうしてそう思ったのか。どういう意味なのか。）』を見つけて、学級全体で考えていかせたい。児童の考えを支援するために、考えは分類して板書していくが、分類した考えをまとめる際に児童に考えさせ、児童の言葉でまとめていきたい。

児童が深めた価値を学級全体で交流した考えの中で、友達の存在の大切さや大きさ、また、真の友情を育てていくために、どのような思いを大切にしていこうかを考えさせ、友達と信頼し互いに相手の立場を思いやり、学び合う大切さに気付かせていきたい。そして、自分がこれから生きていくための『未来へのヒント』を見つけ、友情を深めながら、人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を、自分の生き方に結び付けて考えさせたい。

終末では、学習発表会に向け、友達と信頼し合い、学び合いながら取り組んだ伝統芸能「沖江田楽」から、友情を深めながら取り組んできたことに気付かせると共に、これからも友情を深めながら豊かな人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養っていきたい。

8 指導のポイント

(1) 小中9年間の発達段階における【友情・信頼】のとらえ

段階	学習指導要領（ねらい）	ポイント	児童・生徒の言葉
低学年	友達と仲よくし、助け合うこと。	<ul style="list-style-type: none"> 友達と仲良くする。 友達と助け合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒にいると楽しい。 友達と一緒になら頑張れる。 友達をたくさんつくりたい。
中学年	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	<ul style="list-style-type: none"> 友達と理解し合う。 友達と信頼し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達には良いところがある。 友達と心から信じ合える。
高学年	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	<ul style="list-style-type: none"> 友達と学び合う。 異性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達からいろいろと学ぶことがある。 男子も女子もお互いの良さを認め合おう。
中学生	友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を	<ul style="list-style-type: none"> 友情の尊さを理解する。 友達と励まし合う。 友達と高め合う。 悩みや葛藤を乗り越え、 	<ul style="list-style-type: none"> 友達は生涯の宝物。 友達は信頼できる相談相手であり、良きライバルでもある。 友達とはケンカもするけど、

	深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	人間関係を深める。	何でも話せる。
--	------------------------------	-----------	---------

(2) 主体的に学び合う授業づくりについて

○導入の工夫

- ・アンケートをもとに価値に対する課題意識をもって、学習への動機づけとする。

○中心発問へのアプローチ

- ・赤おに と青おに の重なる心情から、真の友情について考えさせ、友情・信頼の道徳的諸価値について考えさせる。

○自分の生活へつなげる工夫

- ・これまで活動してきた伝統芸能「沖江田楽」と本時の授業で話し合ったことを、関連させ、「未来へのヒント」として記述し、道徳的実践意欲と態度につなげる。

(3) 協働的に学び合う授業づくりについて

- ・道徳ノートに自分の考えを記述させることで、自分の考えを明確にし、ペア学習やグループ学習を取り入れ、価値の深化、統合を図る。
- ・グループ学習を行い、他者の考えに対して相違点を見つけさせ、友だちの意見に問いを見だし、価値を多角的に考えさせる。

9 評価

(1) 授業評価のためのルーブリック

Hop	Step	Jump
人間と仲良くしたいという赤おにの思いを叶え旅に出た青おに、青おにからの手紙を読み涙するあか鬼、互いの友達への思いを考えることができる授業であった。	友情とは互いに相手の立場を思いやりながら育てていくものであることに気づくことができる授業であった。	友達と信頼し学び合いながら友情を深め、人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養うことができる授業であった。

(2) 自己評価のためのルーブリック

レベル1	レベル2	レベル3
【 】について、考えることができた。	【 】についての自分の考えを、他者に伝えることができた。	【 】についての考えを、友達の考えとの相違点をもとに、深めたり広げたりすることができた。

※【 】内には、本時の学習で学べた価値(キーワード)について、児童自身が自己評価し記入する。
期待する児童の記述(キーワード)

[信頼 相手の立場に立つ 学び合う 信頼し合う]

10 準備物

児童配布用教材、道徳ノート、発問短冊、心情円盤

思いをつないで「今」を生きる

中心となる学習活動：学習発表会「沖江田楽」（総合的な学習の時間）

自己有用感を育てる

【総合的な学習における道徳教育のねらい】
自分の役割に責任を持ち、主体的に取り組んでいこうとする。

道徳の時間
「手品師」
(日本文芸出版)
A 自主、自立、自由と責任
一人の手品師が、大劇場の舞台上で手品を演じることよりも、子どもとの約束を大切にすることを考えるを通して、自分自身の良心に誠実に明るく生きていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

協調性・柔軟性を育てる

【総合的な学習における道徳教育のねらい】
伝統を受け継ぐ自分の役割を自覚し、よりよい校風につなげていこうとする。

道徳の時間
「せんぱいの心を受け継いで」
(日本標準)
C よりよい学校生活
集団生活の充実
菊作りの伝統を受け継ぐ6年生が、伝統を受け継ぐことの大切さに気付き、みんなで協力してよりよい学校をつくっていかうとすると共に、自分の役割を自覚して集団生活の充実を努めようとする道徳的心情を養う。

コミュニケーション能力を育てる

【総合的な学習における道徳教育のねらい】
互いを信頼し、学び合い、協力して、沖江田楽を成功させていこうとする。

道徳の時間
「泣いた赤鬼」
(文溪堂)
B 友情・信頼
人間と仲良くしたいという赤おにの思いを叶えようと行動し旅に出た青おに、青おにからの手紙を読み涙するあか鬼、互いの友達への思いを考えることを通して、友情とは互いに相手の立場を思いやりながら育てていくものであることに気付き、友達と信頼し学び合いながら友情を深め、人間関係を築いていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

特別活動 命のつながりを考える

道徳の時間D 生命尊重 「涙のつなぐ」(東京書籍)
命の重さや命につながるたへんさの思いを知り、精一杯に生きようとする意欲を持たせる。

道徳の時間D 生命尊重 「その思いを受けついで」(私たちの道徳 文部科学省)

5月

10月~11月

2月

○ 期待する意識の流れ

頑張る力を支えるものを考えよう。⇒思いをつなぐことは、「今を未来へつなぐこと」
⇒ 互いを信頼し、学び合い、友と歩もう

1 2 学習展開

	学習活動	主な発問と予想される児童生徒の心の動き (◎中心発問)	指導上の留意点 (☆評価の観点)
導 入	1 友達についてのアンケートを知る。	○友達についてのアンケートの結果について考えましょう。 ・自分にとって友達とはどんな存在なのでしょう。	○事前アンケート結果から、友達についてどのように考えているかを知り、価値についての課題をもたせる。
		課題 『友達』 とはどんな存在なのでしょう。』	
展 開	2 教材「泣いた赤おに」を読んで話し合う。 (1) 赤おにと青おにの心情を考える。 (2) 手紙を書いた青おにと泣いている赤おにの気持ちを考える。 (3) 友情について考える。 (個人→グループ) 【かんがえる】 【問いをさがす】	○「泣いた赤おに」を聞き、話し合しましょう。 ○赤おにと青おにの心が重なる場面それぞれの気持ちを考えましょう。 【立札を壊す赤おに・心配する青おに】 赤おに：気持ちが分かってもらえないくやしい。人間と友達になれないさみしさ。 青おに：いつもと違うぞ。どうにかしてあげたい。 【村人の家で暴れる提案をし、実行する二人】 赤おに：いいんだらうか。人間にうそをついている。せつかく考えてくれたのにやらないと悪い。 青おに：人間と仲良くなればいいな。赤おにのために頑張ろう。 ○手紙を書いた青おに、泣いている赤おにはどんな気持ちだったのでしょうか。 赤おに 後悔…申し訳ない。 感謝…こんなに自分のことを考えてくれていたんだ。ありがとう。 青おに いつでも思っているからね。またいつか会おう。 ◎「友達」とは、どんな存在なのでしょう。 補)「どこまでも君の友達」という言葉通り、離れていても二人の友情は続いていくのでしょうか。 続いていく ・互いを思う気持ちがある。 ・この手紙によって、互いの気持ちを知ることができた。 ・相手が自分を信じてくれていれば、友情は続く。 ・離れていても、いてくれるだけで心強くなる。 補) これから会うことはないかもしれないのに、友情は続くとするは、自分達がアンケートで答えた「友情」とは違うのではないのでしょうか。 続かない ・気持ちを伝えても、赤おには返すことができない。 ・もう会うことはないかもしれない。 補) 側にいないと友情は続かないのに、どうし	○赤おにと青おにの気持ちがつながる場面とその心情について発表させ、学習課題をもたせる。 ○手紙を読んで赤おにが泣いている時は、二人の心がつながっているのかという疑問を投げかける。 ○赤おにの涙に込められた思いから考えさせ、青おには手紙を書いている心情を考えさせる。 ○学習課題について考えさせるために、児童アンケートの結果をもとに考えさせる。 ○心情円盤を活用し、離れても友情は、 続く か 続かない かを考えさせ、理由を道徳ノートに記述させ、自分の考えに向き合わせる。 ○記述した考えをもとにグループ・ワークや学級で交流し、意見の相違点に問いをさがし、交流させることでより高い価値に気付かせる。 ○友情が続いていくためには、両者の思いの根底に共通する思いがあることに気付かせる。 ○交流した考えを分類して板

	<p>て青おには、「どこまでも君の友達」と書いたのでしょうか。</p> <p>友達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いを信じる気持ちでつながっている。 ・心強く思える。 ・友達がいるから頑張ることができる。 <p>自分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が信じることが大切。 ・相手の気持ちを大切に作る。 ・相手を敬う気持ちをもつ。 <p>・共に幸せになれる存在</p> <p>○友達が存在について考え、自分の考えが変わったことや新しい気付きをもとに、「未来へのヒント」を考えてみましょう</p>	<p>書し、児童の言葉でまとめさせたり、問いから広げさせ「友情・信頼」を児童の言葉でとらえさせる。</p> <p>○他者の意見を問い直し、価値を深めさせるためにグループ活動を取り入れ、本時のねらいへ迫らせる。</p> <p>☆友達とはどんな存在なのか考え、友情を深めていくための思いを考えている。(ノート・発言)</p> <p>○道徳ノートに記述させ、交流させる。</p>
終	<p>4 学習発表会を振り返る。</p> <p>○学習発表会で友達と力を合わせた「沖江田楽」を振り返りましょう。</p>	<p>○道徳プログラムを生かし、「友情・信頼」の思いを自分の生活に重ねて深めさせる。</p>
末	<p>5 ルーブリックで本時の自己評価をする。</p> <p>○今日の学習の価値や学び方について、振り返りを書きましょう。</p>	<p>○考えた価値について、ルーブリックに記入させる。</p>

12 板書計画

「友達」とはどんな存在なのでしょうか。
離れていても二人の友情は続くのでしょうか。

続く

- ・互いを思う気持ちがある。
- ・この手紙によって、互いの気持ちを知ることができた。
- ・相手が自分を信じてくれていれば、友情は続く。

続かない

- ・気持ちを伝えても、赤鬼は返すことができない。
- ・もう会うことはないかもしれない。

ないた赤おに



気持ちがあんなに分かってもらえないくやし。人間と友達になれないさみしさ。

いいんだらうか。人間にうそをついている。せつかく考えてくれたのにやらないと悪い。

申し訳ない。こんなに自分のことを考えてくれていたんだ。ありがとう。

互いを信じる気持ち
↓
互いの幸せを思う気持ち

友達が自分を信じてくれていたら心強く思える。⇔ 両者
離れていても変わらない思い



いつでも思っているからね。またいつか会おう。

人間と仲良くなればいいな。赤鬼のために頑張ろう。

いつもと違うぞ。どうにかしてあげたい。